

編集後記

淡水第70号をお届けします。

神戸商科キャンパスから初めての学長、高坂誠学長の抱負をしっかりと読み取っていただきたいと思います。

淡水会副会長「淡水」担当

学22 高尾 光俊

巻頭の「改革原点は実学の商大」、まさに兵庫県立大学が動き出したという実感、久方ぶりに熱いものを感じた、おそらくOBの皆さんも多いに期待膨らむことだろう。私の入学(昭和46年)では授業料が年間1万5千円、半期7千5百円だった。特別奨学資金を毎月1万円いただき(お借りして)助かった。お陰で学生天国で大学7年間も居てしまった。しかし、幸か不幸か6才下の嫁を見つけるために来たような学生時代であった。

編集長 学28 高嶋 順滋

長年お目にかかる機会がなかった先輩からお電話をいただいた。Wordleという英単語ゲームへのお誘いである。与えられたアルファベット5文字の単語を6回以内の試行で如何に早く探り当てて競うゲームだそうで大層流行っているとか。かつてScrabbleという盤上ゲームがあったように思うが、今ではネット上で楽しめそう。ほかにSpelling Bee & Letter boxedというのものもあるとのこと。昔も今も単語力に乏しい自分にはたして勝ち目はあるだろうか。

行っているとか。かつてScrabbleという盤上ゲームがあったように思うが、

今ではネット上で楽しめそう。ほかに

Spelling Bee & Letter boxedとい

うのものもあるとのこと。昔も今も単語力

に乏しい自分にはたして勝ち目はある

だろうか。

編集顧問 学22 太田 博史

「淡水会という名はどんな意味ですか？」ある支部忘年会でホテルスタッフから尋ねられた。ご存じの会員も多数おられるが、この機会に改めて紹介すると「君子之交、淡若水」という荘子の語と淡路島との縁からとられたと

きいている。本年は、神戸高商から創

基95年の節目となる。昭和7年、第一

回卒業生が社会へ巣立ち同窓会が組織

された。会員同志の淡き交流が連綿と

受け継がれ、濃い学縁と紐帯の強さに

誇りを感じる。

事務局 学21 飯田 久夫

「日本の未来は明るい！」と社会情

報科学部の学生の話聞いて嬉しく思

いました。AIが支配するのではなく

AIを支配していく学生たちの考えを

ご覧ください。また、支部、OB会活

協力本当にありがとうございます。

事務局 学33 西村 ひとみ

今回は兵庫県立大学高坂誠学長のインタビューに携わせていただいた。ご多忙の中、経験談やお考えを気さくにユーモアたっぷりにお話しくださった高坂学長に感謝申し上げます。「この激動の時代に壁を作る人ではなく橋を架ける人を育てたい」「知のプロフェッショナルを育てたい」というお言葉には感銘を受けました。今後の我々の母校にも期待大だ。

学41 杉本 靖

今回は社会情報科学部の学生の皆さんとのインタビューに参加でき、非常に貴重な体験をさせて頂きました。30年前の自分達の世代に比べ、より実学に近い学問に一生懸命取り組んでいる現役学生たちのエネルギーを感じることができた楽しいひと時に感謝申し上げます。

学45 森 大介

学長インタビューで数年前に母校を訪ねて驚きました。海外研修や留学の機会が増えたとは聞きましたが、学内でも外国人留学生と日本人学生が英語で談笑する姿をあちこちで見かけま

した。我々の時代は「体育会系の部活で組織を動かす実体験を積む方が就職で評価される」などとうそぶいて講義をサボったものですが、今の大学なら私も真面目に授業に出ていたかもしれません。

学49 古根川 淳也

今年度はなかなか編集に携わることが出来ませんでした。代わりに淡水会定例行事について少し。例年1月に新年会、6月に総会をポートピアホテルで開催しており、5年前から司会の大役を頂いております。司会台から見ていると、世代を超えて楽しく会話に花が咲いている雰囲気がとても素敵で、同窓の集まりに少しほっこりします。気にかけて声掛けしてくれる先輩諸氏に恐縮しながら、実はいつもこっそり緊張していたりします。ご縁の繋がりに感謝です。

学50 中内 真人

今年で、淡水編集委員を務めさせて頂いて9年目になります。各支部の総会や行事などもコロナ前と変わらぬ様相になってきており淡水会員の皆様とお会いする機会も増え嬉しく思います。最近と同年代の参加も増えてきたように思います。微力ながら今後も淡水会

に貢献していきたいと思えます。

また、転職により東京へ移動することとなりました。

東京支部でも引き続き尽力していきたいと思えます。

学2017 高田 康平

年の切り替わりに大きな地震がありました。平穏な生活を送れることをあらためて感謝したいと思います。

博H19 清水 隆則

私は今回初めて編集委員として淡水会に携わり交流の場を広げることができました。私と同じ学部である社会情報科学部の学生にインタビューをしたり、OB・OGの方々との交流は非常に貴重な経験であり、このように人はつながっていくのかと実感できました。これからもいろいろな方々との交流を大切にし、その交流をつなぐ「淡水」がこれからも長く続くことを期待したいです。

東部学生会会長

社会情報科学部2回生 村上 耀紀

今回、初めて淡水編集委員を務めさせていただきます。実際に編集委員会での意見交換や、社会情報科学部の方へのインタビューに参加させていた

だき、「淡水」がより身近なものに感じられました。普段関わることができない、様々な方と関わることができ、貴重な機会となりました。ありがとうございます。届くことを願っています。

商大祭実行委員会委員長

国際商経学部2回生 寺崎 桃杏奈

淡 水 70号

発行 2024年3月25日

編集 淡水編集委員会（兵庫県立大学・神戸商科キャンパス内）

発行所 淡水会 〒651-2197 神戸市西区学園西町8丁目2-1

TEL 078 (795)1020 FAX 078 (795)4020

ホームページ <https://www.tansuikai-jimukyoku.org/>

E-mail tansui@gk.u-hyogo.ac.jp

印刷 株式会社 神戸新聞総合印刷